

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 11月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	2294200106
法人名	有限会社 ケイ・エム・コーポレーション
事業所名	ランの郷
所在地 (電話番号)	静岡市清水区承元寺町222 (054-360-0856)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 5人	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造 造り	
	平屋(一部2階) 建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	600 円		

(4)利用者の概要(平成20年9月5日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	静岡市立清水病院、青木内科クリニック、インセル歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

みかん農家の集落に立つ1ユニットのホームである。運営者の祖母が住んでいた家を設計士である代表者が木をふんだんに使って増改築した温かな雰囲気のある建物である。祖母が元気でいた頃のように人が寄りやすい家、お年寄りが集まる場所にしたいという想いは、地域の方々の認知症に対する理解の深まりと共に現実となってS型デイサービスの無い週にお茶会が催されている。開設に当たって家事のプロである主婦を多く採用されたことも家庭的な雰囲気を盛り上げており、家族アンケートでもアットホームであることを喜ぶ声が多く聞かれた。現在使われていない建物の2階が利用者や地域の方々に有効に活用されることが楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今度が初の受審である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は代表者が自ら取り組んだ。代表者は設計士であり、介護とは無縁であったが、グループホーム運営に当たってよく調査・勉強してきた。それだけに評価をサービス向上に活かすべく前向きに対応している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会役員・民生委員・消防団員・保健センター職員等をメンバーに運営推進会議はこれまでに1回開催している。運営推進会議の目的やグループホームについての説明、自己紹介等ホームの役割や地域の中で暮らすことの重要性を理解していただき協力も得ている。ホームからの報告に留まることなくホームの課題や困っていること等について議題にして、地域の考えとすり合わせて解決してゆく取り組みが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームでは利用開始時に対応出来ること、出来ないことを丁寧に説明している。これまでに特に苦情は出ていないが、家族からの細やかな要望には運営者や計画作成担当者が連絡帳に記入して全員で共有して支援の中で反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域の敬老会に入っている利用者もおり、S型デイサービスに数名の利用者が参加している。地道な働きかけにより認知症に対する地域の理解も深まり、お茶会に気軽に立ち寄っていただいたり、生産の野菜を届けてもらったり、菜園の指導をしていただく等田舎の温かい交流が持たれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者中心の介護を確立する 地域密着型としての機能の充実を図る 経営基盤の確立を図る」をホームの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 代表者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示して職員や来客への啓蒙を図っている。ミーティングの際にも理念に基づいた介護が実践できるよう話し合っって意識付けを図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の敬老会に入っている利用者もおり、S型デイサービスに数名の利用者が参加している。地道な働きかけにより認知症に対する地域の理解も深まり、お茶会に気軽に立ち寄っていただいたり、生産の野菜を届けてもらう等田舎の温かい交流が持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、代表者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価受審である。代表者自ら自己評価に取り組んでいる。代表者は設計士であり、介護とは無縁であったが、グループホーム運営に当たってよく調査・勉強してきた。それだけに評価をサービス向上に活かすべく前向きに対応している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員・民生委員・消防団員・保健センター職員等をメンバーに運営推進会議はこれまでに1回開催している。運営推進会議の目的やグループホームについての説明、自己紹介等ホームの役割や地域の中で暮らすことの重要性を理解していただき協力も得ている。	○	ホームからの報告にとどまることなくホームの課題や困っていること等について議題にして、地域の考えとすり合わせて解決してゆく取組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する書類の提出等に出向いて情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでは利用者費用の支払は振込みにせず家族に持参していただいております。そのため家族は毎月一度はホームを訪れ利用者の様子を見たり、職員から経過を聞き取ったりしています。利用者の金銭出納に関しては預かり金の補充をしていただく際に確認をお願いしている。	○	金銭出納帳は家族確認の時に必ず確認サインをいただくよう望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を代表者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは利用開始時に対応出来ること、出来ないことを丁寧に説明している。これまでに特に苦情は出ていないが、家族からの細やかな要望には運営者や計画作成担当者が連絡帳に記入して全員で共有して支援の中で反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの代表者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぐ為の対策として手当てに反映したり、懇親会を催して親睦を図り、日常においても気持ちよく働ける雰囲気作りに取り組んでいる。新採用の職員にはベテランの職員が付き添い利用者について理解を深めることに努め、利用者が安心して支援を受けられるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、代表者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は内容により職員が参加しており、受講後はミーティングで報告して職員に共有できるよう図っている。介護支援専門員が看護師であることから実践にはいつでも手本と成り得ている。研修手当の支給もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、代表者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ他事業所との交流の機会は出来てない。	○	他事業所との交流により得るところは多く、サービスの質の向上を目的とした交換研修・勉強会等職員の満足にも繋がる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居で1～2泊試してみるにより自然な形で利用していただいている。これまでに2～3泊の外泊しか経験の無い利用希望者も家族の心配をよそにスムーズにホームの暮らしに馴染むことが出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を尊重しながらできることを職員と一緒にいき、利用者同士が助け合う場面も見られる。帰宅願望の利用者には他の利用者が話の聞き手になり対処できることもある。若い職員は利用者から折々にかけていただく言葉に励まされたり、昔の人の知恵を教えていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中で出来るだけ利用者の意向を把握できるよう取り組んでいる。目が不自由な利用者には不安を取り払うべく声掛けをしながら行動し、会話が難しい利用者には目を見て話しかけることによって意思を確認する等個々の思いを汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用前のアセスメントにより課題を把握してケアプランの土台としている。日々の支援の中で得た職員の気付きは、逐一代表者へ報告しており、気付きと対応は連絡帳により全職員に共有され、また次の介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新介護支援専門員により3ヶ月ごとの見直しを目指した体制が整いつつある。介護支援経過や介護日誌等で把握された状態を参考に、見直し以前に対応できない変化が見られた場合には現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	S型デイサービスの利用、家族が行かれないときの受診付き添い等柔軟に支援している。また、希望があれば家族の宿泊にも対応できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により従来からのかかりつけ医に受診したり、ホームの協力医による診察を受けている。協力医は緊急時には往診にも対応してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針は作成されている。ホームでは既に自然な形で看取りを経験している。現在ターミナルケアを希望するケースがあり同意書も取り交わされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの自尊心を傷つけないように対応しており、言葉かけや対応に気になることはなかった。職員に対して虐待に関する意識調査も行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは一日の流れはあるものの、利用者はゆったりとそれぞれが好きなように過ごしていた。全介助が3名という中で、利用者の穏やかな人柄がホームに落ち着いた雰囲気を作り出していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けに参加できる利用者は職員と間違えような働きをしている。野菜の煮物を主にした献立で、テーブルを囲んで家族のことや世間話をしながら和気藹々とした食事風景であった。職員は食事介助のため共に食事を取ることはできないが会話に入って話題を共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回は入浴していただいている。1日に2～3人の入浴介助で、ほぼ毎日を入浴日としているので希望があればいつでも対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したり畳んだり、またそれぞれの元へ運んだり、炊事の手伝い等利用者はできることを自主的に行なっている。雑巾を縫ったり、ノートを常に携帯して思いついたことを書き取ったりそれぞれの得意なこと、好きなことができるよう支援している。職員と利用者が諺を言い合う楽しい場面もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭の植栽にも興味をそそるものが多くあり、周辺も散歩に適した環境で利用者は日常的に戸外へ出ている。地域のS型デイサービスの参加、買い物やお花見等の外出の機会も設けられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事務室には玄関に向けてガラス窓が取り付けられ、また庭に面した掃き出しは透明ガラスで人の出入が確認できるので、一般家庭と同じように玄関は夜間を除いて常に解放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと防災訓練を行い、火災報知機の点検や非難口の設置等法令遵守に努めている。代表者が地域の消防ポンプの手入れに参加する等良好な関係ができており、災害時の協力も得られる状態にある。	○	平屋建てで万が一の場合にも比較的安全が保てる環境ではあるが、職員や利用者がパニックに陥らないよう、運営推進会議を活用して地域の方に防災訓練に参加・協力を働きかけ、車椅子での避難や夜間の避難訓練等対応が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量は記録をとって状態変化時に備えている。嚥下が困難な利用者には刻み食や流動食にて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計者でもある代表者はホーム内を木材をふんだんに使った温もり感のある内装に仕上げている。廊下にはいくつもの天窓をつけて自然の光を摂り入れている。玄関や廊下のそこ此処には花がさりげなく活けられており、従来の部屋を生かした畳敷きの居間は利用者が寄り合いやすい雰囲気をかもししている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は凹凸をつけて利用者に自分の部屋が分かりやすい設計にしており、腰壁や天井、床は無垢材を使って移動可能な畳敷きのベッドと共に温かさを感じる造りになっている。使い慣れた箆箆やテレビが持ち込まれ、大きなぬいぐるみや花なども飾られそれぞれが心地良く過ごせる部屋となっている。		